

東日本旅客鉄道株式会社 御中

2022年10月23日

女性専用車両に反対する会

代表 福山 博



ジェンダー平等を実現する会

女性専用車に頼らない犯罪対策の推進に関する要望

貴社、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

さて、「女性専用車両に反対する会」と「ジェンダー平等を実現する会」(以下、当会)では、主に都市部の通勤列車において「性犯罪や迷惑行為等の防止のため」として導入されている、“女性専用車”は男性への『男は女を守るべきという「ジェンダーバイアス」(性別に基づく偏見や固定観念)』を促進させるものであり、近年社会で重視される多様性社会の実現を阻む要因の一つであると考えております。

よって当会では鉄道会社を問わず、全ての女性専用車の廃止と、より効果的で安全が見込める犯罪対策の推進を求める活動を行っております。

しかしながら今年6月、公明党・日本共産党所属議員らを中心とする団体が貴社に対して「ジェンダー平等」を根拠として、女性専用車の更なる拡大を要望したとの報道を拝見しました。

当会は当該団体による、この度の働きかけをジェンダー平等と逆行するものと捉え、強く非難すると共に、以下に女性専用車が孕む問題点を指摘させていただき、またジェンダー平等に基づいた女性専用車に替わる防犯対策も提示させていただきますので、何卒ご一読の上で貴社におかれても問題点を共有していただきたく存じます。

記

1. 属性により利用を制限する車両を設けることは不合理であり、差別です。

鉄道内において痴漢等の性犯罪や迷惑行為を行う犯罪者は当然、鉄道利用者全体から見て、ごく一部の人間です。

然るに不特定多数の男性乗客を生まれながらの「属性」により「推定犯罪者」であるかのように仮定し、男性乗客の存在しない空間の設置を目的として、何ら法的根拠に基づかない「女性専用車」と称する車両を設定し、男性乗客の利用を妨げることは憲法で定められた男女平等の理念から大きく逸脱するものです。

また、現状「女性専用車」について社会の受け止め方には賛否がありますが、当会会員を含め、「男性としての自尊心を傷付けられた」という人々が一定数存在します。

さらには、外見からでは判断できない障がい者男性や高齢男性、性的少数者、子ども連れの男性等にとっても女性専用車の存在は大きな壁となります。

貴社には「女性専用車」が多様社会やジェンダー平等の理念に逆行する犯罪対策であり、男性全体への「統計的差別(※)」であることを認識していただきたく思います。

※「統計的差別」とは、侮蔑的な意図からではなく、過去の統計データに基づいた判断から行ったことに対して、結果的に生じる差別のことです。

2. 女性専用車両は女性の自立や社会進出を妨げる要因になり得ます。

通勤列車内等において、痴漢等の犯罪に遭うリスクは統計的に女性の方が多いたが、いたずらに公共の場に女性専用の空間を設けることは却って女性の警戒心や自衛心を希薄にさせることにつながり、いざというときに自分の身を守ることができなく、女性自身が危険にさらされる恐れがあります。

また、女性専用車が設定されている列車で女性専用車でない車両に乗車した女性が痴漢等に遭った場合に「女性専用車に乗れば良かった」などと誤った後悔をし、さらには他者から「女性専用車に乗れば痴漢に遭わずに済んだのでは」などと、心無い言葉を言われるということもあります。

本来、鉄道は男女を問わず、乗車する車両は自由に選択が可能であるべきであり、鉄道会社にはその実現に向け最大限の努力が求められます。

女性専用車という「箱モノ」では根本な解決にはならず、未来志向の犯罪対策が必要です。

3. 性犯罪は女性のみが被害に遭うわけではありません。

鉄道内等における痴漢被害者は女性のみではありません。

男性でも痴漢被害に遭う事例は数多くあり、ある調査(※)によれば男子中学生の1.2%、男子高校生の2.5%、男子大学生の6.4%が電車の中で身体を触られる行為に遭ったことがあると答えています。

当会の過去の検証においても、女性専用車に隣接する車両は混雑する傾向にあり、それにより男性がより被害に遭いやすくなるリスクが生じます。

また、このリスクは女性専用車でない車両を利用する女性乗客にとっても同様です。

これは、車両内が混雑すれば痴漢犯罪が増加するということが統計上、明白になっているわけですから至極当然といえます。

女性専用車の設置により、他の車両で性犯罪を誘発するような事態は本末転倒です。

※「青少年の性行動全国調査報告 2011」（日本性教育協会）

4. 女性だけの空間はより重大な結果を招く恐れがあります。

社会の中で起きる種々の事件の加害者は当然、男性に限りません。

女性にも凶悪事件を起こす方がいます。

特に近年は公共の場における、刃物等の凶器を持った女の犯人による事件(※)も目立つようになっています。

こうした傾向を鑑みた場合、女性専用車のような空間は何らかの無差別的な事案が突発的に発生した場合に男性が同居する空間に比べてより大きな危険や重大な結果を招きやすいという盲点があります。

※2010年9月：名古屋市中区の市営地下鉄金山駅のトイレで女が面識のない女性を
突然刃物で切りつけ殺害

2020年7月：東京・青梅市で路線バスから降車した女性が女に刃物で切り付けられ死亡

2021年8月：金沢の百貨店で女が刃物で男性客に切りつけ

2021年12月：仙台のスーパーで清掃員の女が刃物で男性客を切りつけ

こうした過去の事案を踏まえ、大前提として「男性の存在こそが、最大の防犯対策」であると考えべきではないでしょうか。

5. 当会は女性専用車に替わる、性別を問わない犯罪対策を提案しています。

- 当会では比較的早い段階から列車内の防犯カメラの設置を提言してきました。

防犯カメラによる犯罪抑止効果は過去にJR埼京線で一部車両への防犯カメラ導入後、痴漢被害が大幅に減じたことから証明されています。

昨年12月、国土交通省は相次ぐ鉄道車両内での無差別事件を受け、新造車両への防犯カメラ設置を義務化する方針を打ち出しましたが、当会としても貴社に引き続き防犯カメラを備えた、より多くの鉄道車両の早期導入を要望するものであります。

なお、国外の鉄道における防犯対策の事例として、イギリスでは警察とは異なる専門のチームが防犯カメラを活用し、犯罪や迷惑行為の予防、冤罪発生の防止に効果を上げていることを付記いたします。

- 当会では以前より、犯罪対策として警察官や警備員による車内巡回の強化や車両内外への私服警察官警乗中のステッカー貼付等の「見せる警備」や予防啓発のための車内放送の強化等の対策も訴えてきました。

一昨年や昨年の鉄道車内における相次ぐ無差別事案以降、列車内外の警備は強化されつつありますが、未だ十分とは言えない状況にあります。

よって女性専用車ではなく、まず基本的な防犯対策の強化を常時行える体制作りが必要です。

- ラッシュ時に、特定の通勤列車の一部車両を誰でも利用可能な「防犯強化車両」、または「だれでも安心！さぼーと車両」として設定、車内に「安心さぼーたー」と称するスタッフを乗車させ、通勤や通学に不安を抱える乗客のニーズに即応できるようにしてはいかがでしょうか。

おわりに

以上、当会が提案する女性専用車に替わる犯罪・迷惑行為の防止策の一例を挙げさせていただきましたが、当会は先般議員らが貴社へ鉄道における安全対策に関する要望を行った対策の中で「女性専用車の導入拡大」以外の各項目については何ら反対をしておらず、犯罪対策の強化や被害者救済の必要性等については当該団体と基本的姿勢を同じくするものであることを付け加えさせていただきます。

以上

返信先

〒104-0061

東京都中央区銀座2-14-8

ML20030622

女性専用車両に反対する会